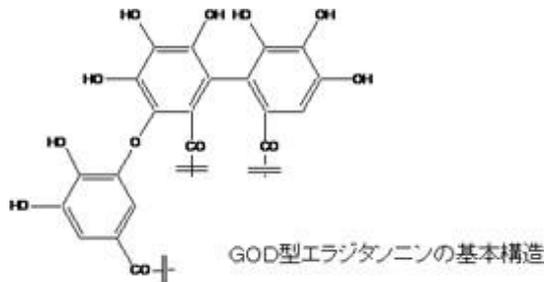


項目	内容
名称	テンチャ（甜茶） [英] [学名]Rubus suavissimus S. Lee
概要	甜茶は、中国茶の一種であり、「甜」の文字は甘いを意味し、文字通り甘いお茶である。中国では、バラ科の甜葉懸鉤子(てんようけんこうし)、アカネ科の牛白藤(ぎゅうはくとう)、ユキノシタ科の臘蓮繡球(ろうれんしゅうきゅう)、ブナ科の多穂石柯葉(たすいせきかよう)などが甜茶として知られているが、ここでは、バラ科の甜茶について述べる。バラ科の甜茶は中国南部地方の広西壮族自治区に自生している。日本へは低カロリー甘味料の原料として紹介された。
法規・制度	■ 食薬区分 ・テンチャ(タスイカ/タスイセキカヨウ) 葉:「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)」に該当する。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・甜茶ポリフェノール(GOD型エラジタンニン)、ルブソシド(rubusoside)、カリウム、カルシウム、マグネシウムなどのミネラル(107) (PMID:17827756)。



分析法	<ul style="list-style-type: none"> ・甜茶ポリフェノールの定量は、HPLCを用いてGOD型エラジタンニンを紫外可視(UV)検出法(280 nm)にて検出している。 ・甜茶の甘味成分であるルブソシドを、薄層クロマトグラフィー、HPLC-UV法(210 nm)、NMR解析法にて分析した報告がある(PMID:12436720)(PMID:1368695)。
-----	---

有効性

ヒトでの評価	<p>循環器・呼吸器</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>消化系・肝臓</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>糖尿病・内分泌</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>生殖・泌尿器</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>脳・神経・感覚器</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>免疫・がん・炎症</p> <p>RCT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スギ花粉症患者32名(18歳以上、試験群44名、日本)を対象とした二重盲検プラセボ対照試験において、甜茶エキス65 mg、シソエキス15 mg含有食品を1日3粒45日間摂取させたところ、下鼻甲介粘膜腫脹、鼻腔内水性分泌量の低減が認められた(2002099133)。 ・チリダニによるアレルギー性鼻炎の患者89名(試験群47名、平均30.5±10.4歳、日本)を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、テンチャ抽出物400 mg/日を4週間摂取させたところ、くしゃみ、鼻汁、鼻閉塞などの鼻炎症状に影響は認められなかった(PMID:21216122)。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年性鼻アレルギー患者21名(平均24.3歳、日本)を対象とした試験において、甜茶エキス40 mg含有食品を1粒×3回/日、4週間摂取させたところ、摂取前と比較して自覚症状(くしゃみ発作減少、鼻汁減少)、他覚所見(鼻腔内水性分泌量、鼻誘発反応、鼻汁中好酸球検査)の改善が認められたという予備的な報告があるが、この現象についてはさらに詳細な検証が必要である(1996039015)。 ・スギ花粉症患者15名(平均35.2±13.8歳、日本)を対象とした試験において、花粉症発症2週間前から、甜茶抽出物40 mg含有飲料を1缶×2回/日、4週間以上摂取させたところ、発症後に摂取し始めた群と比較して、使用薬剤量(medication score)の低減、使用薬剤と症状重症度を組み合わせたスコア(symptom medication score)の改善が認められたという予備的な報告があるが、この現象についてはさらに詳細な検証が必要である(2000027900)。 <hr/> <p>骨・筋肉</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>発育・成長</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p> <hr/> <p>肥満</p> <p>調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。</p>
--------	--

その他	調べた文献の中に十分な情報が見当たらない。
参考文献	<p>(PMID:12436720) 食品衛生学会雑誌. 2002 Aug;43(4):250-3. (1996039015) 耳鼻咽喉科展望. 1995;38(4):519-32. (2000027900) 耳鼻咽喉科展望. 1999;42(4):447-58. (2002099133) 日本臨床栄養学会雑誌. 2001;23(3):5-14. (1995242660) 炎症. 1994;14(4):323-7. (1996104224) 炎症. 1995;15(2):167-73. (PMID:21216122) Auris Nasus Larynx. 2011 Oct;38(5):600-7. (91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS). (PMID:1368695) Agric Biol Chem. 1991 Feb;55(2):449-53. (PMID:17827756) Chem Pharm Bull (Tokyo). 2007 Sep;55(9):1325-31. (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第1版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳 (30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)</p>